

南門跡

歴史家はこの場所が、13 世紀鎌倉時代（1185–1333 年）の歴史書「吾妻鏡」に記載された、観自在王院の門のあった位置だと考えています。そして、ここで発見された柱と角柱は、南門のものだと考えられています。

観自在王院の遺跡の規模はおおよそ南北 204 メートル、東西に 120 メートルあります。

観自在王院の建物は 16 世紀に火災で失われたとされ、20 世紀後半に池の修復再生や遺跡全体の整備事業が行われるまで敷地は水田として利用されていました。